

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	初任時教育や日々の生活の中で理念を確認しあっている。		常に口にしている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示し、周知徹底を図っている。ミーティング・会議等で話している。		日々・1対1の細かい取り組み指導をしていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレットへの記載や、ボランティアの方々の来訪時を利用して掲示を見てもらっている。		
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	天気の良い日は散歩に出かけ、近所の方々と挨拶を交わしている。(畑仕事、植、収穫)・防災協力員として依頼している。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進の機会を利用し、地域との情報交換を行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の様子観察をし、家族に助言・相談を行なっている。		畑への行き返り等よく高齢者と話をする。
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員・家族より気のついた点を指摘してもらい、話し合いを行なっている。		重度化への対応など、家族との協力体制を具体化していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現段階では、推進委員のメンバーに、グループホームの機能を理解してもらうための説明を行なっている。会議で出た意見はホームに持ち帰り、職員会議で話し合っている。		グループホームの理解はかなり進んだと思う。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	機会がある毎、市役所に足を運び、情報交換を行なっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要時には関係機関と連絡を取り合って対応している。(利用者・親族へ、利用を勧めたことがあった。)		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・(経営者)自身も夜勤や、入浴介助を行い目配りしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書などにより、良く説明するよう心掛けている。常日頃から家族と連絡を取り合い、不安や疑問を投げかけられるように努めている。		入退去に際し、家族、紹介機関との連絡を密に行い理解してもらおうよう努力する。
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に、利用者・家族の声に耳を傾けるように努めている。職員会議で話し合いを行なっている。		ご意見箱の設置。意見を言ってもらえる状況・雰囲気にも努める。利用者が運営推進会議に参加している。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	問い12と同		月に2・3回は、TEL、FAXで個々の通院状況や生活に関する連絡をしている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	問い13と同		家族との話し合い等職員間へ常に共有している。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見を出しやすいような雰囲気づくりに心がけている。個別に話を聞く機会を設け、不安や疑問点を聞くようにしている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通院・行事・新入居者への対応の人員配置を計画して行なっている。		緊急時対応も、管理者・経営者が必ず対応出来るようにしている。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者の最小に努力している。	○	定着に向けた環境整備に取り組む。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務・実務に応じた受講の機会を作り報告会を行なっている。	○ 勤務表に年休の配慮をして学習の環境を作っていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県GH協への(1ヶ月1回)の参加や相互訪問に積極的に取り組んでいる。	○ 職員間交流をもっと持ちたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	無理なシフトを作らない。(融通のきくシフト)	○ 勉強会・レクに取り組むよう努力したい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	介護への助言・実用書の貸し出しを常に行い、本人の気づきに対して他の職員へ共有を働きかけるようにしている。	○ 各種の受講を勧めていく
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	紹介のあったケアマネや関係機関から情報収集し、入居前の利用者面接、家庭訪問をしている。	アセスメントを行い家族の希望・本人の状態、生活歴等情報収集を行なう。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	問い23と同。 計画作成担当者と管理者がゆっくと希望や不安を聞くように努めている。	柔軟な計画の元、職員からの情報を生かした取り組み・工夫をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関やサービスの情報提供したり紹介をおこなっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に施設見学をしていただき場の雰囲気を見ていただくよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	施設内の家事・買い物と一緒にこなすよう努めている。		日常生活の知恵等を誘い出す会話を心がけている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を密にし、一緒に考えていくような姿勢で望んでいる。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	事ある毎に家族に呼びかけを行い、面会や手紙などで本人と家族が良い関係を築けるように努めている。		当分の間は双方の苦勞・心勞・言い分の聞き役又、今後の不安などを良く聞き取りをしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも出来、家族知人との外出も出来る体制をとっている。	○	家族親戚間の様々な関係があるが、できるだけ双方満足出来るよう支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員の係わりによりコミュニケーション作りに努めている。		利用者の席配置・隣席者への手伝いなど、その時々々に気配りした声掛けに気をつけている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所した元利用者が、当法人の経営するデイサービス利用をしてくれたりしている。		
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報の中から本人の希望や思いを引き出している。		職員の係わりによるコミュニケーション作りの中から把握することが多い
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の生活歴情報から把握している。		それぞれの思いを実現できるよう、職員による記録等を充分反映させている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	記録を出来るだけ詳しく書いてもらい、日ごろのケアに反映させるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人らしく暮らしていただく工夫について、家族との係わりを密にしていく。	○	本人らしさを充分引き出せるよう検討・計画を進めていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	問い35に同 常に柔軟な対応を行い日々の申し送りや連絡事項として周知させている。		時には、回覧形式で周知を図ることもある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケースを記録し柔軟な見直しに役立っている。		職員の係わりを大事にした記録であり時にドラマを含む情報の中から実践に役立つよう共有している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム内での多機能的支援は無い。		法人の経営するデイサービスへ出向き、誕生会や花見の行事 又、個別対応の生活訓練等に出かけている。
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員・ボランティアが時に来てくれる。		月2回の生花ボランティアが来てくれている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じた医療機関でのリハビリを支援した。		医療機関との連絡を密にした連携を取り合う。またホーム独自の口腔ケア体操や、狭いところでも出来る手足の体操を日々行なっている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	まだ協働はない。		いつでも対応の準備はある。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医への支援・また嘱託医を準備した支援を行なっている。		協力医との連携・嘱託医による相談支援関係を良好に継続している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	嘱託医を脳神経外科・神経内科・リハビリテーション科の医師に依頼している。		個々のかかりつけ医への通院は、時々看護師又は管理者が同行することにより利用者の日常・服薬の報告している。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員への相談により、入浴時の身体観察やバイタルの個々の観察が詳細に行なわれ、支援しやすくなった。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	出来る限りの支援を行なう。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	方針の共有をしている。		出来る限りの支援を行なう。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化に向けた指針を作り看護師指導の基に講習等行なっている。		出来るだけの援助を行い、関係機関の協力を得てその人らしさを大事にするように努力する。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>個人情報に関するものはその時々内容にあわせて許可を得るようにしている。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>その都度柔軟な対応を心がけている。庭先に1週3回八百屋さんが来てくれる。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>入浴の夜間対応・希望のシャワーも開所時から続けている。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>全般に厚着傾向であるが、「スカーフなど組み合わせてみよう。」と勧めて季節にあった服装を支援している。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>食材は近くの畑に出向き収穫することもある。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>お酒・タバコはほとんどないがおやつ菓子類は近くの和菓子店や、洋菓子店で選ぶ。</p> <p>体重増加に注意し飲み物の種類を増やしていない。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄リズムをつかむよう努力している。		排泄パターンにあわせた声掛けや、職員の協力により、排泄表を詳しく記録し参考にしてている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日が入浴日だが、重度化や高齢化にも柔軟に対応したタイミングで支援している。		希望に添わないときは、夜の入浴に誘い清潔を保つように支援している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	30分から1時間の休憩・午睡を勧めたり体調に合わせた余暇活動の支援により満足・充実を感じてもらい穏やかに眠っていただく。	○	外気に当たることが少ないのが課題
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事・買い物・デイサービスへ行って幼馴染に合う・編み物・談話を楽しむ。		買い物リスト作り・手作り歌集製作・壁紙作り・似顔絵・干し柿作りなどを楽しんでいる。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は理解はしているが、本人の管理は難しいため、希望の買い物は施設立替で家族へ請求している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・畑仕事・買出しを行なっている。		ドライブ・外食もたまにはあるが、あまり外出したがないのが悩み。全員でデイサービスへ出かけ誕生会や、花見で5時間ほど過ごしている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	公園でいものこ会をしたり、ダムへ紅葉狩りにいく。		ドライブなどなかなか車外へ出ないのが悩み。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には手紙、電話のやり取りは自由となっている。		認知症の為、何度も電話することがあり、家族や親戚から止められていることもあるので、見極めが難しいこともある。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者はホールで過ごしてもらうこともあり、体操参加や、余暇活動参加してもらうことがある。		最近、計画作成担当者の赤ちゃんが良く来てくれるので大変楽しみにしている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしていない。		拘束に繋がる言葉を発しないよう心がけている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にチャイムをつけてあるが、(ポストなし)7時から19時頃まで施錠はしていない。		部屋に鍵はつけてない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守り、報告・伝達により安全を確保できるよう努力している。		夜勤、日直の申し送りを職員全体が把握できるよう伝達の方法に充分気配りして危険を防止している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者にとって危険なものを分類し、収納庫へ随時片付け、また巡回時のチェック事項として取り組んでいる。		ポットや調理時の包丁などは、職員の見守りにより危険を回避している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハットを充分利用した見守り、報告・伝達により防止している。		見守り、気づきの報告・伝達に力をいれ防止している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	避難訓練・救急救命の講習を受けている。	○	シュミレーション回数をもっとふやしたい。全員に救急救命の講習を受けさせたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練・救急救命の講習を受けている。抜き打ちで避難訓練や伝達訓練をシュミレーションをしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族の訪問時個々の予想される危険や、防止策について話し合っている。		見守り、気づきの報告・伝達など共有することにより未然に防げるよう努めている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックのみならず、前後の申し送り、気づきを大事にした、各チェック項目により、速やかに看護師への報告をするようマニュアルを作成し周知している。	○	マニュアルに添った対応が出来るよう看護師と共に勉強会を定期的に行ないたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用・用法・用量について理解しているとはいいがたいが、通院後の薬の処方の変化等は情報を共有・確実な伝達により、服用後の状況を常に看護師へ連絡相談をしている。		必ず看護師に報告し、医師との連携で指示をもらっている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取量の把握に努め、食材や便秘防止のジュースの提供している。		栄養士・保健師・看護師・調理師・職員の協力により、体操、個々の体調に合わせた下剤の使用、排便後の観察を行なっている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎日三食後の義歯、及び口腔の洗浄・週2回の義歯ポリデント洗浄を行なっている。		協力歯科医により、治療・他個々の指導を受けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個々の水分摂取量や、むせ、義歯、体重、好みの食材等を参考として、主食・副食・間食をバランスよく取り入れている。</p>	<p>栄養士・保健師・看護師・調理師・職員の協力により、(時に医師)状態を維持している。体重測定を月2回、状況によって3回行なっている。</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルを作り実行している。常に職員、利用者の見えるところに貼り出している。</p>	<p>予防のワクチンは家族・本人の了解のもと実施。又職員、利用者とも手洗い励行や、道具の消毒、入浴時の観察報告等対応をしている。</p>
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>調理用具・布巾・オシボリの消毒、食材の吟味に努めている。</p>	<p>購入日や賞味期限に注意した買出し、保管の仕方や洗浄の仕方、加熱することによる安全など考えて提供している。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>建物が普通の民家作りである。</p>	<p>庭木・花壇も近所の住宅となんら変わらぬ住環境である。</p>
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>コンパクトすぎて不快な音が聞こえたりもするが、職員の努力により、かなり解決できているように思う。</p>	<p>監視にならぬよう気配りする・無関心にならぬよう気配りが出来ている。</p>
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>各居室を訪問することもあるが、ホールに居てそれぞれ利用者同士が雑談をしている。</p>	<p>玄関にいつも季節の花や木が飾られ、みなで作った壁紙が貼られてる。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談して持ち込んでいただいているがあまり物は多くない。		家族との写真や、自分で作った壁紙・いただいた絵手紙などで居室を飾っている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気には気を使っている。又、住居内の清潔と共に利用者さんの清潔は1番に考え汚物処理などもすばやく行なっている。		夏は早朝の窓の開閉による換気とエアコン使用。冬は床暖房である。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なものは配置しない。		風呂、トイレのほか手すりが無い事、玄関に段差を作ったことは、個々の身体状況に応じた援助を行い、世話をする人とされる人が、一体化できている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	問い85に同		9人中時々居室がわからなくなる方は2名でその度誘導している。又、要介護1から5までの方が入所されているのでそれぞれ助け合う環境が自然にある。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭での日光浴や草取り、花壇・プランタの手入れ		垣根にあさがおがからんだり、プランタに花の種を蒔いたり、水をやったり何かと忙しく活動がある。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

建物がコンパクトで、利用者の動きが一目でわかるため監視にならないように充分気をつけ、さりげない援助をしています。新しい利用者さんを決める時は、空室となった部屋の条件に合う利用者さんを選ばせてもらっています。(部屋替えはしません)介護度1から5までの利用者さんですから、安心が無関心にならないよう皆さんへの気配りをしています。看取りはしませんが、各有資格者・職員・嘱託医との協力の下、できるだけ穏やかに普通の暮らしを続けるよう支援します。